

第4章 基本戦略

「かわさきの農業」において緊急かつ優先的に取り組む課題を基本戦略として設定しました。今後10年間で、課題の解消・設定する目標達成に向けて、以下の4つを基本戦略として進めます。

基本戦略1 持続的・自立的な農業経営に向けた支援

- 農業力向上に向けた重点的な支援
 - ・ 認定農業者等に向けた経営支援の充実
- 持続的な農業経営に向けた担い手の育成・確保
 - ・ 経験の浅い農業者等を対象とした技術指導の充実
 - ・ 援農ボランティアの育成・活用
- 農業技術支援センターの見直しによる技術支援機能の充実
 - ・ 農業技術や地域環境の変化に対応した各種試験研究、普及の実施



農業後継者講座

基本戦略2 農業振興地域等の活性化

- 農地の貸し借りの促進 ● 農業用施設等の長寿命化 ● 農業集積地域への支援
- 農業振興地域の活性化
 - ・ 黒川東・黒川東土地改良事業共同施行の早期解散による観光農業等の推進
 - ・ 黒川上・地域農業の活性化や農環境の保全等に向けた取組みの推進
 - ・ 岡上・グリーン・ツーリズムの推進による観光農業等の普及・啓発
 - ・ 早野・「早野里地里山づくり推進計画」に基づく多様な主体と連携した振興施策の推進



農業振興地域(岡上地区)

基本戦略3 多様な主体との「共創」による「新たな農業価値」の創造

- 多様な主体との連携
 - ・ 多様な主体が集う場の設置「都市農業活性化連携フォーラム」
 - ・ 情報の共有、モデル事業の実施
- 6次産業化への支援強化
- ブランドの再構築と知財を活用した連携によるブランド化の推進
 - ・ 「知的財産ポリシー」に基づいた多様なステイクホルダーとの連携



農商工連携(かわさきハーブソーセージ)

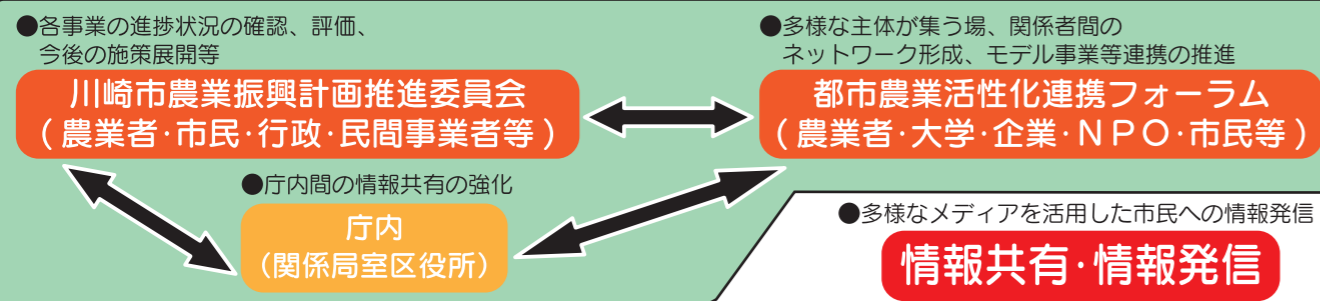
基本戦略4 多面的機能を有する都市農地の維持・保全と活用

- 「農」に関するイベント等の効果的な展開
- 利用者や農業者、民間事業者等との連携を図った農業体験機会の提供
- JA等と連携した食農教育・環境学習等の展開
- 持続的な農業経営に向けた担い手の育成・確保【再掲】



地域交流農園での農園祭

第5章 計画の推進にあたって



次世代に引継ぐ かわさきの「農業」

川崎市 農業振興計画

概要版

「農」を育て・創り、活かし、繋ぐ



計画期間 平成28～37年度までの概ね10年間

第1章 計画の策定にあたって

本計画は、平成17年3月に策定した農業振興計画「かわさき「農」の新生プラン」を引き継ぎ、この間に起こった農業を取り巻く様々な環境変化に対応するとともに、貴重な都市農地を保全し、次世代に引き継ぐために策定するものです。

農業者が都市的立地を活かした健全な農業経営を行い、併せて、安らぎや潤いなど多面的な役割を果たしている貴重な空間である農地を守っていけるよう、農業者の営農意欲や市民の農業理解をさらに向上させるなどの施策を推進します。「次世代に引継ぐ かわさきの「農業」」を実現するため、地域全体で「農」を育て・創り、活かし、繋いでいきます。

第2章 川崎市農業の現状と課題

第3章 農業振興施策の基本方針

基本目標…次世代に引継ぐかわさきの「農業」を育て・創り、活かす、繋ぐ

【育てる・創る】 Ⅰ 都市的立地を活かした健全な農業経営の推進と創造

1 担い手・後継者の育成

- ・経営改善に向けた認定農業者の育成・確保
- ・生産力向上に向けた就農間もない農業者等への技術支援の充実
- ・農業者同士のネットワークづくりへの継続支援



のらぼう菜の系統試験

2 健全な経営に向けた支援・研究

- ・既存の経営支援メニューの見直し及び、より効果の高い事業への転換
- ・農業技術支援センターのあり方を見直しによる技術支援機能の充実
- ・生産性や安全性・持続性の高い生産技術支援を実施するための研究環境の整備や指導體制を確保

3 農業生産基盤の維持・管理

- ・農振地域内等で老朽化が進む農業用施設の計画的な補修・長寿命化

4 援農ボランティアの育成・活用

- ・継続した援農ボランティアの育成とボランティア利用促進に向け支援

5 多様な連携からの新しい価値の創造

- ・多様な主体が集積する川崎の強みを活かした様々な分野との連携による市内産農産物の付加価値向上や農作業の効率化等を目指す



JR 東日本との連携プロジェクト
多摩川梨ジャムのパウンドケーキ

【活かす】

Ⅱ 多面的な機能を有する農地の保全・活用

1 農環境の保全と活用

- ・都市農地が持つ多面的機能を評価・活用した施策の推進(グリーン・ツーリズムの推進等)
- ・農業振興地域におけるハード・ソフト両面からの施策の推進による地域農業者の営農意欲の向上、農環境の保全

【繋ぐ】

Ⅲ 「農」とのふれあいによる農業への理解促進

1 市民と「農」を結ぶ仕組みの拡充

- ・市内や民間事業者等との連携・情報共有によるイベント等の「農」施策の効果的な展開、「農」との交流の場の提供

2 農業体験機会の提供

- ・利用者、農業者、民間事業者等と連携した市民農園等の農業体験機会の提供

3 効果的な広報による農業への理解促進

- ・多様なメディアを活用した市民への効果的な情報発信



女性農業者団体による市民との交流
(農業フォーラム)

国の動向

- TPPに伴う農業分野の関税撤廃や規制緩和等
- 強い農業(農業の成長産業化)・大規模化
- 「都市農業振興基本法」の成立・施行(2015年4月)
- JA・農業委員会等の改革の推進

本市における今後の情勢変化

- 市内産農産物の需要拡大、安定的な供給への対応
 - ・セシサモス宮前店の本格稼働(2015年10月オープン)
 - ・中学校給食のスタート(2017年秋～)
- 食の安全・安心、地産地消への意識の高まり

本市農業の特徴と強み

- 生産地と消費地の距離の近さ、身近な147万消費者の存在
- 高い技術力と挑戦する意欲を持つ農業者の存在
- 高い技術力やノウハウをもつ多様なものづくり企業等の存在
- 知的財産の創造・保護・活用を促進するための川崎市知的財産戦略による知的財産の活用

多様な機能を有する農業・農地への期待

- 農作業によるシニアの健康維持(健康・福祉)
- 良好な景観形成、水源かん養・洪水防止機能、生物の生息空間(緑地・環境)
- 災害時の貴重なオープンスペース(防災)
- 環境学習・農業体験学習等の教育の場(教育・文化)

担い手・後継者の育成にかかる課題

- 農業従事者の高齢化や後継者不足
- 定年帰農者等、経験の浅い農業者への対応
- 本市農業を牽引する意欲ある認定農業者等の確保と育成
- 援農ボランティア等、多様な担い手の育成・活用

健全な経営に向けた支援・研究にかかる課題

- 地域課題により密着した農業技術の試験研究・普及
- 限られた農地や施設での生産の高度化、直売対応の品目や作型の検討、降雪等気象災害への対応
- ブランド化等、市内産農産物の付加価値向上の必要性

農業振興地域にかかる課題

- 農業上の利用が求められる農業振興地域等での不安定な経営
- 深刻な高齢化、担い手・後継者不足と遊休農地の発生
- 農業振興地域における土地の不適切利用問題
- 農業用施設等の老朽化 ●各地域特有の課題

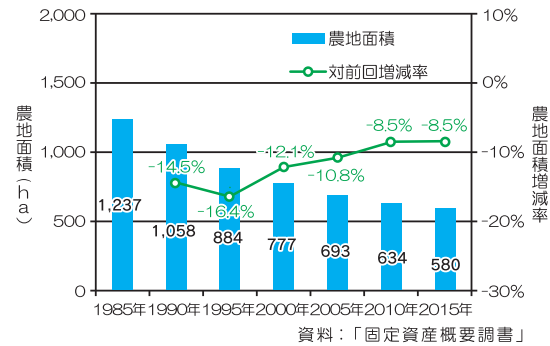
効果的な支援に向けた既存事業の見直し

- 庁内関係局全区役所・民間事業者等が実施する事業との重複(イベント等)など

情報発信や情報共有にかかる課題

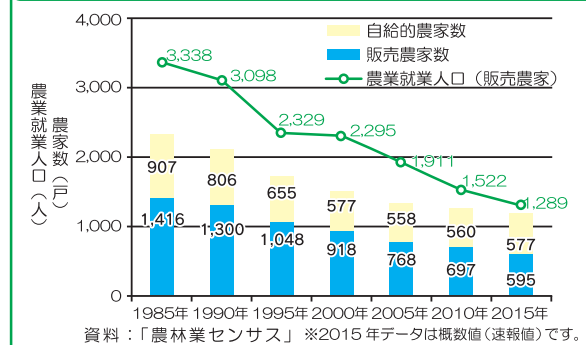
- 多面的価値を有する都市農地の保全の必要性、その価値についてのPR不足
- 農業と他産業等との連携が限定的であり、ステイクホルダー間・庁内間の情報共有できる場がない

農地面積と対前回増減率の推移



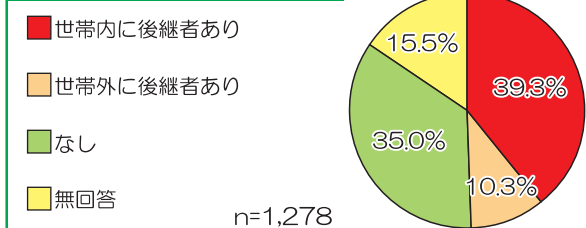
厳しい相続税等の税負担や都市化による営農環境の悪化等により、近年は鈍化傾向ですが、農地面積は年々減少しています。

農家数・農業就業人口の推移



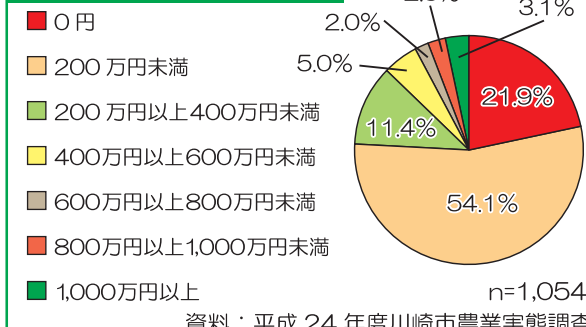
農家数は1,172戸(2015年)で、農地同様年々減少しています。特に販売農家が減少し、自給的農家は下げ止まる傾向にあります。

農業後継者の有無



後継者について、多くの農家が危機感をもっており、調査によれば、就農予定も含め「後継者あり」と回答した市内農家は49.6%となっています。

世帯の農業収入



年間600万円を超える農業所得を得ている世帯は、全体の7.6%となっています。